



輝き人生 ライフ

このコーナーではきらりと
輝きながら活躍する市民を
紹介します。

海外での協力活動で得た経験を 今後、社会に還元していきたい

やまだ てつお
山田 哲夫さん (南野町)



▲三重県を通じて亀山市内の福祉サービス会社などから
支援していただいた車いすを前に、現地の人と写真撮影

(独法)国際協力機構(JICA)の青年海外協力隊(みえ国際協力大使としても任命)として、アフリカ西部のガーナでのボランティア活動(2年間)を終え、9月末に帰国された山田哲夫さん。ガーナでは、配属先の身体障がい者を受け入れている職業訓練校で、理学療法士として生徒への理学療法、技術系授業の学習支援、地域一帯を巡回してのリハビリテーションサービスの提供や相談業務、地域の病院やNPO法人等と協力しての教育活動などに従事。現地の人々と共に生活・協働しながら、開発途上国の課題解決に向けた活動に取り組みました。

一なぜ、青年海外協力隊に参加を？

「東南アジアで青年海外協力隊として活躍する大学時代の知人を

訪ね、現地の人と一緒に、開発途上国の発展に貢献している姿をみて、やりがいのある活動だと感じました。それまでに外国に行くことが多かったこともあり、遠く離れた異国の地『ガーナ』でチャレンジしてみようと決意しました。」

一うれしかったことは？

「理学療法を施して、日常的な動作能力が回復していく現地の人々の姿は嬉しいもので、『ありがとう』の言葉は何よりでした。また、現地のガーナ人と協力して、障がいのある子どもとその親の生活支援のためのNGO法人の立ち上げなどに従事できたことも、大きな達成感がありました。」

一苦勞されたことは？

「現地に行ってみて、やってみないと分からないことばかりでした。

それが苦勞ではありましたが、そこで見つかる感動や驚きは、海外の活動ならではの醍醐味だと思います。あとは、やはり日本と文化や習慣の違いがあり、人懐っこいもののガーナ人ののんびりした感じは、慣れるのに少し時間がかかりました(笑)。」

一これからは？

「国内外を問わず、障がいのある人や生活に困窮している人などを支援する仕事または活動に従事したいと考えます。そのなかで、支援する人・される人、日本人・外国人といった枠を越え、お互いを尊重し合える仲間が世界中に多くできればと願います。海外で協力活動ができたことは貴重な人生の“財産”です。その経験を社会に少しでも還元していきたいと思います。」



亀山市名誉市民

彫刻家 中村 晋也

作品介绍「ふるさとあい」Vol.29

「周梨槃陀伽」平成15(2003)年制作

釈迦の弟子のひとりであった周梨槃陀伽は、自分の名前さえも満足に覚えられず、背中に名札を貼られて歩いてたといわれています。お釈迦様から一本の帚と「塵を払わん、垢を除かん」という言葉を授けられ、この言葉に従ってひたすら掃除し人々の足を拭き続けた周梨槃陀伽は数年後、悟りを得て尊者となり人々に崇められました。この作品で中村がもっとも苦心したのは、本当に純真で無欲な人の顔をどのように表現するかということでした。一日一日をひたむきに生きることにより高邁な精神にたどり着いた周梨槃陀伽は、柔らかな微笑をたたえて「さあ、あなたのおみ足を拭きましょう」と語りかけているようです。

特別協力 公益財団法人中村晋也美術館 (URL <http://www.ne.jp/asahi/musee/nakamura/index.html>)



185cm(高さ)×49cm(幅)×40cm(奥行)